

米づくり情報（NO. 1）

令和8年7月3日

伊万里・西松浦地区農業技術者連絡会作物部会

1 気象概況（アメダス観測地：伊万里）

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値	本年値	平年値	本年値	平年値	本年値	平年値	本年値	平年値	本年値
		℃	℃	℃	℃	℃	℃	mm	mm	時間	時間
6月	1	20.6	21.9	25.8	25.6	16.3	18.8	24.3	34.5	27.1	9.8
	2	21.3	21.5	26.1	25.9	17.3	17.5	33.7	19.0	24.1	26.0
	3	21.9	22.1	26.5	28.1	18.2	16.7	48.2	0.0	22.1	38.2
	4	22.4	24.8	26.8	29.0	19.0	21.6	67.9	33.0	19.6	8.7
	5	23.1	22.0	27.1	24.2	20.0	20.3	85.9	313.0	16.0	5.7
	6	24.0	22.1	27.7	26.0	21.1	19.1	95.6	79.5	14.1	26.4

- ・平均気温は、6月第1～3半旬は平年並みで推移した。第4半旬には平年より2.4℃高くなったが、その後の第5～6半旬は平年を1.1～1.9℃下回った。
- ・降水量は、第1～2半旬は平年並みであった。第3半旬は降雨がなく、第4半旬も平年を下回った。第5半旬には313.0mmのまとまった降雨があった。
- ・日照時間は、第1半旬は平年比36%と少なかったが、第3半旬には平年を上回った（平年比173%）。しかし、第4～5半旬は平年の36～44%と少なく推移した。その後、第6半旬には平年を上回った。
- ・梅雨入りは6月4日で、平年（6月4日ごろ）並みであった。

2 生育状況（7月2日）

項目 品種(設置場所)	移植 日	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉齢 (L)	葉色 SPAD	概要
夢しずく 東山代町脇野	5/30	本年値 平年値 平年比(差)	52.6 57.0 92	245 374 66	8.2 9.4 (-1.2)	39.9 43.1 (-3.2)	・草丈は平年よりやや低い ・茎数は平年より少ない ・葉齢は平年より遅い。 ・葉色は平年より淡い。
ひなたまる 松浦町桃川	6/19	本年値	24.5	93	5.2	36.2	※前年と栽培条件が異なるため、前年値なし。

（耕種概要）

品 種	年 次	苗 質		移植日	栽植密度 (株/㎡)	備考
		苗丈	葉令			
夢しずく	本年値	15.3	2.5	5/30	18.2	前作 水稻
	平年値	14.6	2.5	5/31	18.2	前作 水稻
ひなたまる	本年値	13.0	2.3	6/19	18.5	前作 大麦

※平年値は、H28～R7の平均値から最上位と最下位の数値を除いた平均値。

3 参考（平坦部 佐賀県農業試験研究センター）（7月2日）

米づくり情報(平坦部) 第1号

令和8年7月2日

佐賀県農業試験研究センター 本場

本年産水稻の生育状況（7月2日）

移植日	項目 品種	年次	草 丈 cm	茎 数 本／㎡	葉 齢 L	概況 (平年または前年との比較)
6月18日	夢しずく	本 年	27.9	86	5.2	[気象] 6月1日～30日まで ◆平均気温…0.3℃高い ◆日照時間…短い(平年比 88%) ◆降水量…多い(平年比 178%) [生育] ◆草丈 「夢しずく」、「ひなたまる」は低く、「さがびより」はやや高く、「ヒノヒカリ」、「ヒヨクモチ」は高い。 ◆茎数 「夢しずく」、「ヒノヒカリ」、「ひなたまる」は少なく、「さがびより」はやや少なく、「ヒヨクモチ」は多い。 ◆葉齢 「ひなたまる」は少なく、「夢しずく」、「ヒノヒカリ」、「さがびより」はやや少なく、「ヒヨクモチ」は平年並み。
		平 年	30.0	92	5.4	
		平年比(差)	93	93	(-0.2)	
	ヒノヒカリ	本 年	25.0	102	5.4	
		平 年	23.6	119	5.6	
		平年比(差)	106	86	(-0.2)	
	ひなたまる	本 年	25.6	90	5.3	
		平均(2ヶ年)	29.8	99	5.8	
		前年比(差)	86	91	(-0.5)	
6月19日	さがびより	本 年	25.9	77	5.2	
		平 年	24.7	79	5.4	
		平年比(差)	105	97	(-0.2)	
	ヒヨクモチ	本 年	24.7	148	5.7	
		平 年	22.6	128	5.7	
		平年比(差)	109	116	(±0)	
留意点	○移植後は、曇雨天が続き、低温寡照で推移したため、葉齢進展が遅く、茎数が少ない傾向が見られた。					
	○除草剤の処理後、1週間の止水管理を行った後は、速やかに浅水管理に移行し、茎数確保と根の健全化に努める。					
	○深水管理は、分げつ発生の抑制やスミリンゴガイによる被害を助長するため、大雨時に深水にならないよう、適切な水(尻)管理に努める。					
	●病害虫に関する情報は以下のリンク(農業技術防除センター病害虫防除部)より確認ください。 https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html					

注1)「夢しずく」、「ヒノヒカリ」、「ひなたまる」は、6月18日移植の稚苗(播種期5/25、播種量 湿粳 180g/箱)

「さがびより」、「ヒヨクモチ」は、6月19日移植の稚苗(播種期5/26 播種量 湿粳 180g/箱)

2)栽植密度: 「夢しずく」は、条間 30 cm × 株間 17 cm, 19.6 株/㎡(65 株/坪)

「ひなたまる」は、条間 30 cm × 株間 18 cm, 18.5 株/㎡(60 株/坪)

「さがびより」は、条間 30 cm × 株間 20 cm, 16.7 株/㎡(55 株/坪)

「ヒノヒカリ」「ヒヨクモチ」は、条間 30 cm × 株間 15 cm, 22.2 株/㎡(73 株/坪)

3)栽培管理: 施肥法は県基準に準じ、防除他はセンターの慣行による。

4)平年値は、収量について過去の全試験年次の標準偏差(σ)を算出し、±1σの外側にある年次を除く年

今後の管理

1) 山間早植え水稻（5月上旬移植）

- ・まもなく幼穂形成期を迎える。幼穂形成始期（幼穂長 1 ミリ）を迎えた圃場では、次の表を参照し穂肥を施用する。

《夢しすく 穂肥診断基準》

幼穂形成始期の 草丈(cm)	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量 (kg／10a)	
	群 落	SPAD-502	出穂前日数	幼 穂 長	窒素成分量	BB602
	3.0以下	34以下	22～20日前	1 mm	3.0	18 kg
73cm以下	3.0～3.5	38以下	20～18日前	2 mm	3.0	18 kg
	3.5～3.8	38～39	15～14日前	10～15mm	1.5～2.0	10～12kg
	3.8以上	40以上	晩限は止葉抽出終了まで		1.0以下	6 kg
73～79cm	3.0～3.5	34以下	20～18日前	2 mm	1.5～2.0	10～12kg
	3.5～3.8	38～39	15～14日前	10～15mm	1.0	6 kg
	3.8以上	40以上	施 用 し な い			
80cm以上	原 則 と し て 施 用 し な い					

【穂肥診断の方法】

- ①幼穂形成始期頃の草丈を測る。
- ②葉色（群落・SPAD 値）を測る。
- ③上記①②の測定値を診断指標に当てはめ、施用量を確認する。
- ④施用量を確認したら、基準の施用時期に穂肥を施用できるよう準備する。
- ⑤穂肥は、湛水状態で施用し最低 4 日間は止水し、落水しない

2) 普通期水稻「夢しすく」

- ・有効茎（1 株当たり 20 本程度）が確保できた圃場から順次中干しに移行する。
- ・ガス対策として移植後 15 日、25 日頃は夜干しなどを行い、根の活力を高める。
ただし、用水確保が難しい地域では落水せずに湛水状態を保つようにする。
- ・中干しは約1 週間、土壌表面に軽い亀裂が入り、足跡がわずかにつく程度とし、中干し後は間断灌水を行う。なお、中干しを強めにした圃場（手が入るほどの亀裂がある）では、いったん通水し、ならしをしてから間断灌水に移行する。
- ・除草剤散布直後大雨によりオーバーフローしたほ場では、ヒエ、コナギやホタルイ等の雑草が発生する恐れがある。発生が多い場所では、中後期除草剤等による防除を実施する。



左 18 本 右 17 本

（間もなく中干へ移行）

左 29 本 右 23

（ただちに中干へ移行）

参考）茎数の目安

参考) 夢しずく茎数の目安

○中干しの目的

- ・無効茎の発生防止や下位節間の伸張防止
- ・窒素制限による生育量の適正化
- ・有害物質の除去及び土壌酸化による根の健全化
- ・地耐力を高め倒伏を防ぐ

○中干しの開始時期の目安

- ・有効茎（1 株当たり 20 本程度の分けつ）が確保でき、株が開張して草丈がおおむね 35～50 cm となった頃から開始する。

○中干しの期間と程度

- ・中干し実施期間は、5～7 日とする。
- ・中干しの程度は、軽く足跡がつき、小さなヒビが入る程度とする（歩いて足跡がつくが、抵抗なく歩ける硬さが理想）。

※土壌が白乾し、手のひらが縦に入るようなヒビができる強い中干しは、断根を伴い稲のストレスとなるので避ける。

葉と葉が重なり、30m先の条間が見えなくなったころが
中干し開始の目安



小ひびが入るくらいの
強さで行う



3) 普通期水稻「ひなたまる」等

- ・活着期～分けつ期を迎えている。除草剤処理後 1 週間経過した圃場は浅水管理に移行し、茎数確保に努める。

※除草剤は、散布後 3 日経過すれば有効成分が土壌に吸着されるが、除草剤の処理層が破壊されないよう湛水状態（水尻を止水して湛水状態を保ち自然落水によって田面が見えても 1 週間は入水しない。）を保つようにする。ただし、均平が取れず田面が露出した部分がある場合は、1 週間後の雑草発生状態を確認し、早めに中後期剤等での防除を行う。



田面が露出し、ヒエが生えてきた圃場

3) 共通

(スクリミングガイ)

・佐賀県農業技術防除センターの「スクミリングガイの発生予測と防除徹底について」(5月26日)によると、スクミリングガイの越冬生貝率は、前年12月～当年2月の平均気温が高いほど高くなる傾向があり、平均気温に基づく予測式から、本年の越冬生貝率は高いと推定される。(図1)

浅水管理と薬剤防除を組み合わせる、スクミリングガイによる被害を抑える。使用する場合は、除草剤散布と同時または散布直後に、メタアルデヒド剤などを必ず散布(施用後は要湛水)する。

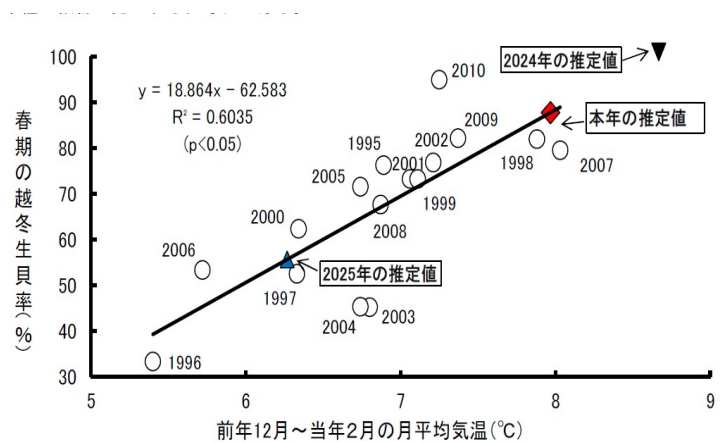


図1 水田内でのスクミリングガイの越冬生貝率と冬期の平均気温との関係

(いもち病)

- ・伊万里地域では、6/21に葉いもち感染好適条件、6/23に葉いもち準好適条件が確認されている。
- ・今後は圃場の発生状況に注意し、進展型病斑が確認された圃場では、「オリブライト 250G」等で速やかに防除を行う。
- ・圃場内に放置されている補植苗では「いもち病」や「ごま葉枯病」の発生が懸念されるため、補植後はすみやかに除去する。

BLASTAM情報第2号(葉いもち感染好適条件の出現状況)(2026年7月1日更新)

月	日	佐賀					福岡			長崎	
		唐津	伊万里	佐賀	嬉野	白石	前原	太宰府	久留米	松浦	佐世保
6月	1日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	2日	●	●	—	●	●	—	—	—	—	●
	3日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	4日	—	—	—	—	—	●	—	—	—	—
	5日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	6日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	7日	—	—	—	●	—	—	—	●	—	—
	8日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	9日	●	●	—	—	●	●	—	—	●	●
	10日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	11日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	12日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	13日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	14日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	15日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	16日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	17日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	18日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	19日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	20日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	21日	—	●	—	—	—	—	2	2	—	—
	22日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	23日	●	4	—	—	●	●	●	●	●	—
	24日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	25日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	26日	—	—	—	—	—	●	—	—	—	—
	27日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	28日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	29日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	30日	—	—	—	—	—	—	—	—	—	?

- 1: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が20℃未満)
2: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、前5日間の平均気温が25℃以上)
3: 準好適条件(湿潤時間は10時間以上であるが、湿潤期間中の平均気温が15～25℃の範囲外)
4: 準好適条件(湿潤時間が湿潤期間中の平均気温ごとに必要な時間数より短い)
●: 好適条件(湿潤時間が長く気温も適当で、葉いもちの感染好適条件が出現した)
—: 好適条件の出現なし
?: 判定不能

(ウンカ類)

- ・セジロウンカとトビイロウンカの飛来が確認されている。
- ・今後の飛来状況や圃場条件（移植時期や品種、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量は異なるため、注意深く圃場を観察し、発生が多くみられる場合は速やかに防除を行う。

海外飛来性害虫情報第4号(ウンカ類・コブノメイガのトラップ捕獲状況) (令和8年7月1日更新)

月	日	トビイロウンカ				セジロウンカ				コブノメイガ					
		佐賀県		長崎県		佐賀県		長崎県		佐賀県					長崎県
		佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	佐賀市	嬉野市	諫早市	諫早市	佐賀市	神埼市	伊万里市	白石町	武雄市	諫早市
		ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップ	ネット トラップ	ライト トラップ	ライト トラップ	ネット トラップ	フェロモン トラップA	粘着トラ ップ(20W 蛍光灯)	フェロモン トラップ	フェロモン トラップ	粘着トラ ップ(20W 蛍光灯)	フェロモン トラップ
5月	22日	0	0	0		0	0	0							
	23日	0	0	0		0	0	0							
	24日	0	0	0	0	0	1	0	0						0
	25日	0	0	0		0	0	0							
	26日	0	0	0		0	1	0							
	27日	0	0	0		0	20	1							
	28日	0	0	0	0	0	1	0	1						0
	29日	0	0	0	0	0	0	0							
	30日	0	0	0		0	0	0						0	
	31日	0	0	0		0	0	0		0	0				
6月	1日	0	0	0	0	0	0	0	0						0
	2日	0	欠測	0	0	0	欠測	0	0		0			0	0
	3日	欠測	1	0	0	欠測	0	0	0		0			0	0
	4日	0	0	0	0	0	17	0	1	0					0
	5日	0	0	0	0	0	0	0	1	0				0	1
	6日	0	1	0	0	0	1	1	0		0			0	0
	7日	0	0	0	0	0	0	0	0						0
	8日	0	0	0	0	0	0	0	0						0
	9日	0	0	0	0	0	0	0	0		0			0	0
	10日	0	0	0	0	0	0	0	0						1
	11日	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0
	12日	0	0	0	0	0	0	0	0		0			0	1
	13日	0	0	0	0	0	0	0	0						0
	14日	0	0	0	0	0	0	0	0						1
	15日	0	0	0	0	0	1	0	0						0
	16日	0	0	0	0	0	1	0	0		0			0	0
	17日	0	1	0	0	0	1	0	0						0
	18日	0	4	0	0	0	4	0	0	0					0
	19日	0	0	0	0	0	1	0	1		0			5	6
	20日	0	8	0	0	0	4	0	0						44
	21日	0	0	0	0	0	0	0	1						8
	22日	0	0	0	0	0	1	0	0						12
	23日	0	0	0	0	0	2	0	0	0		2		22	6
	24日	0	0	0	0	0	29	4	0						11
	25日		0	0	0		47		0	0					1
	26日		1		0		106		0		0			10	0
	27日		1		0		11		0				0		1
	28日		0		0		4		1						0
	29日		0		0		1		0						0

注1)ウンカ類:佐賀市のネットトラップは、農業試験研究センターで調査(回収日で集計)。嬉野ライトトラップ(予察灯)は農業技術防除センターで調査。6月1～2日の嬉野ライトトラップは、装置の不具合により欠測。

注2)コブノメイガ:神埼市、白石町、伊万里市、武雄市は防除員が調査。佐賀市のフェロモントラップは農業試験研究センターで調査。
※長崎県のデータは、長崎県農林技術開発センター 環境研究部門 病害虫発生予察室提供。

（カメムシ類）

- ・県では、早期水稻を対象に令和8年6月22日に斑点米カメムシに対する注意報を発令した（令和8年6月22日付け佐農技防第281号）。
- ・圃場周辺の畦畔、休耕田、空き地等の雑草は斑点米カメムシ類の増殖・飛来源となるため、**除草作業を出穂10日前までに行う**。出穂直前以降の除草は水田内への斑点米カメムシ類の侵入を助長するため避ける。
- ・薬剤防除は乳熟期（穂揃い期の約10日後）を中心に行うが、発生が多い圃場では穂揃い期と乳熟期（穂揃い期の7～10日後）の2回薬剤防除を行う。

【佐賀県農業技術防除センターの調査結果（注意報より一部抜粋）】

表1 イネ科雑草における斑点米カメムシ類のすくい取り調査結果（6月後半調査）

	クモヘリ カメムシ	ミナミオ カメムシ	ホソハリ カメムシ	アカシジ カメムシ	シラホシ カメムシ類	イ カメムシ
本年（R8）	72.5	9.2	4.0	46.4	0.5	0.1
平年比	多	多	多	並	並	並
平年	1.7	0.1	1.2	35.3	0.5	0.0
前年（R7）	0.4	0.1	1.7	14.6	0.1	0

注）表中の数値は、すくい取り調査（捕虫網20回振り）における地点当たりの平均捕獲虫数。
平年値は過去10年（H28～R7）の平均値。

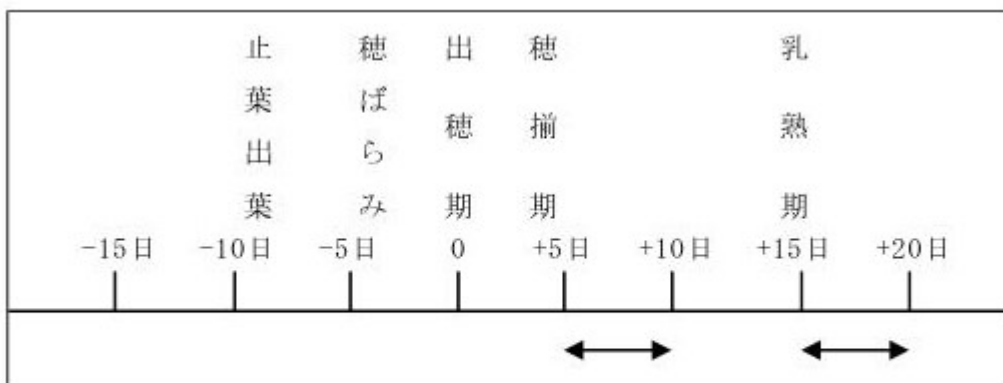


図1 斑点米カメムシ類の防除適期

令和8年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：伊万里）

西松浦農業振興センター

